まだまだ暑い日が続きます。プールは終わってしまいますが、そのほか少しでも公園へ出掛けてたっぷりと身体を動かしシャワーをして スッキリ！ご飯をいっぱい食べて 寝て… と過ごしていきたいと思っています。夏に積み重ねた体力や自信が秋の実りになっていきますように…。これからも引き続き水筒やタオルの準備等よろしくお願いします。

プール

始めは身体や顔に水がかかると「やめてよー！」と怒っていた子どもたちもビート板を出すと「船したい！船しよ！」や「○○が動かす！」とビート板の上に我先に！と乗る子もいれば「揺れますよー！つかまってて下さーい！」と保育者の真似をしてビート板を動かす子もいます。"思いっきり遊びたい！"けど水がかかるのは怖いAくん。少しでも水が飛んでくるとへりに掴まって背中を向ける姿がありました。でも…そんなAくんが遊んでいく中で大変身！始めはおしりを水につけるのが怖かったけれどもビート板のトンネルやフープを保育者と手をつないでくぐり「通れたね！」「やったね！」とハイタッチをして喜び合う中で、ある日…「先生！見てよね！」と全身を水につけてみたり、口元を水につけるのを繰り返し楽しむ姿が見られるようになりました。8月の終わり頃には顔全体を水につけれるようになり「見てた？もう一回するね！」と何回もつけるのを楽しみ保育者が「すごいやん！Aくん！」と声をかけると「へへへへ♪出来たよ！」と飛びはねて喜んでいました。Aくんだけでなく他の子どもたちも気の合う友だちがしていることを"自分もしてみたい！""やってみたい！"という思いが芽生え、いろんなことに挑戦している姿に驚きます。
残り少ないプールあそび、子どもたちの"やってみたい"がたっぷりできるよう遊んでいきたいと思います。

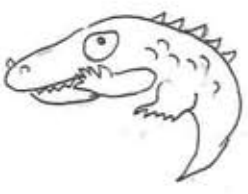
（文責 西川）

プールの姿にあったように子ども達は"やってみたい"という気持ち、小さい"できた！"をコツコツ積み重ねて姿が変わってきています。また自由遊びの時には1人の子がうんていや鉄棒をし始めると「○○もやってみる！」とお友だちの姿が刺激にもなってきています。保育者が援助をしたり背中を押しながらAくんのように一人ひとりの意欲を引き出していきたいと思います。

かまきりオニごっこ

この夏 少しの間でしたが公園に行く事がありました。みんなで1つの遊びをしたい！と保育者が作ったのは子ども達が好きな絵本『たんごむしのころちゃん』に出てくる「かまきり」のお面です。遊びの内容はオニごっこと変わりないのですが、「かまきり（オニ）だぞ～」と保育者が追いかけると『きゃ～』ともみじダンゴムシは逃げていきました。遊びが盛り上がっていくかなぁ …と保育者が思ったのも束の間…。保育者からオニが子どもに代わったとたん同じように子どもも「かまきりだぞー！」と手も力下にして追いかけあと少し…まで行くのですが、タッチをしないオニさん。そんだけでなく敢えて逃げまわったり「○○もかまきりしたい～」と。そうなのです。子ども達はオニをして追いかけたかったのです。結局保育者は「かまきりが来た！逃げろー！」と一緒に思いっきり逃げたり、「あの子捕まえに行こう！」と力下として促してみたり、あっちへこっちへ行っていました。オニが変わらないオニごっこ…楽しくないですものね…。友だちへの興味が広がり"みんなで""一緒に"という気持ちが大きくなっている一方で子ども達だけでは まだまだ遊びは成立しません。
プール遊びが終わり戸外でもこれから出ていく中で簡単なルールのある遊びをしていきたいと思います。そこで"みんなと遊ぶって楽しい！"という経験や気持ちを大切にしていきたいです。

そして…



イメージの世界も膨らんでいて、かまきりオニごっこも一瞬でカマキリや逃げるダンゴムシになったりになる3歳児ロジック。この世界の名人です。その世界を保育者や友だちと一緒に遊び、例えばプールの中で『ぬた』になってみることっと、とても様々で大きな口を開ける子もいれば、歩き方・泳ぎ方にこだわりのある子もいてどれもその子の表現です。遊びを通しての自己表現、その子らしさを保護者の皆さんにも伝えていきたいと思います。

（中村）